

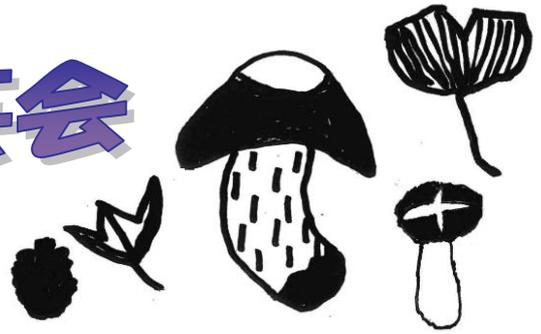
平成29年度

江古田小学芸会

中野区立江古田小学校

日時 11月24日(金) 児童鑑賞日
25日(土) 保護者鑑賞日

開場 8時30分 開演 8時50分 会場 本校体育館



スローガン

夢の世界をみんなで造りあげよう 江古田劇場2017

あいさつ

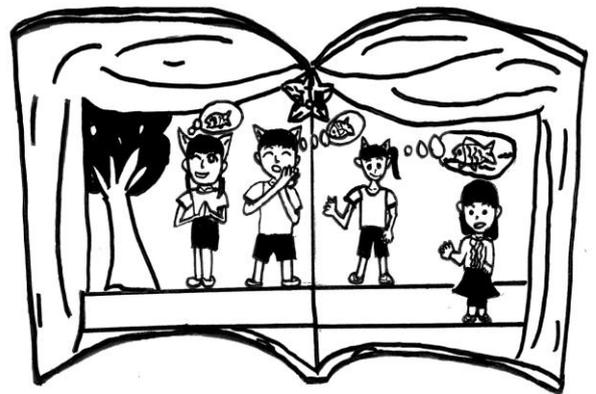
立冬も近づき、秋が一段と深くなってまいりました。皆様におかれは、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、11月は芸術の時節です。今年は上記の日程で、学芸会を開催いたします。子ども達は台本を読み深め、友達と協力し、物語を創り上げてきました。一人一人の頑張りとおあわせて、学年全体の高め合いをご覧いただければ、幸いです。

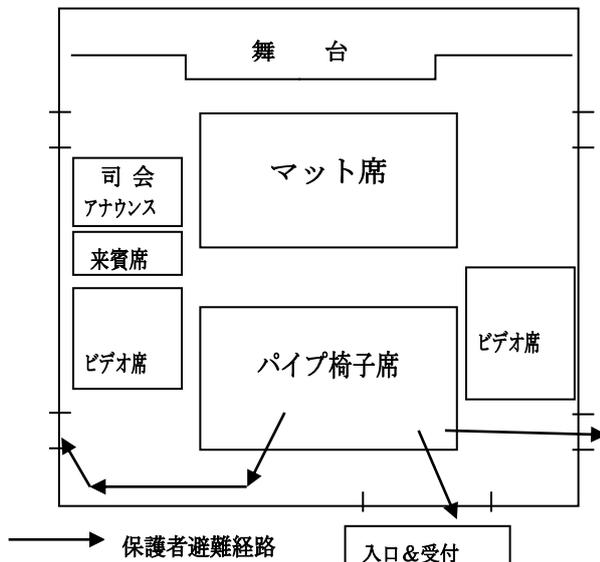
ご多用とは存じますが、是非ご来場いただき、子どもたちを励ましていただけますよう、お願い申し上げます。

平成29年11月吉日

中野区立江古田小学校長 伊波 喜一



会場図



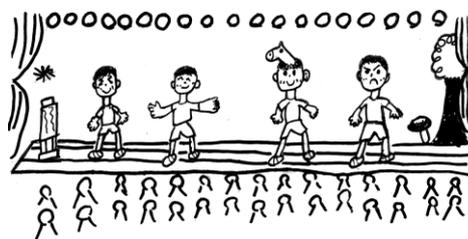
○お願い

- ・上履きをご用意ください。下履きはビニール袋に入れて、お手元にお持ちください。
- ・演技中の出入りはご遠慮ください。
- ・フラッシュ撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話の電源はお切りください。



- *舞台前の席は、マット席になっています。
- *座布団が必要な方は、お持ちください。
- *マット席は上演学年の保護者の方の優先席です。
- *体育館入口に受付があります。

プログラム



1. はじめの言葉

2. 小さなまほう使いたちの大きな大きなぼうけん 3年

もうすぐ卒業を控えた小さな魔法使いのたまごたち。魔法学校の最後の課題はブロッケン山のでっぺんにある「月の石」をとってくること。小さな魔法使いたちは、3つの魔法の道具を持って、危険がいっぱいのブロッケン山に向かいます。はたして無事に「月の石」を取ってくるのできるのでしょうか。

3年生にとって2回目となる学芸会。中学年になり、体も心も一回り大きく成長し、演技にも一段と磨きがかかっています。58人が織り成す物語を是非お楽しみください。

3. あやうし! にん者学園 1年

立派な忍者になりたくて、忍者学園に通う子どもたち。毎日修行に励み、頑張っているのですが失敗ばかり…。忍者進級のテストの日、忍者学園にずるがしこ道場の忍者たちが攻めてきます。子どもたちは大慌てです。しかし、忍者学園の子どもたちが力を合わせ、ずるがしこ道場を追い出します。いったいどんな技が飛び出すのか。そして、忍者進級のテストはどうなってしまうのか。

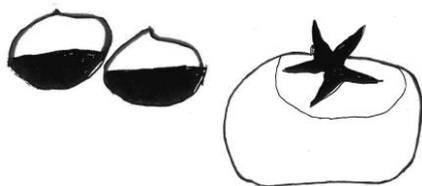
1年生65名は初めての学芸会です。みんな精一杯演技をします。可愛い忍者姿をお楽しみください。

4. 冒険者たち 5年

町ねずみのガンバは友達のマンブクに誘われて海を見に出かけます。港で船乗りねずみたちと出会い、乾杯をしていると、そこへ一匹の傷ついた島ねずみが現れます。島ねずみは、イタチのノロイ一族から助けてほしいと頼みますが、イタチの恐ろしさを知っている船乗りねずみたちはことわります。ただ一人、ガンバだけは島ねずみを助けようと「夢見が島」へ向かうことを決断しますが、さあ、どうなるでしょう。

5年生が『仲間とは何か』を考え、心を一つに伝えます。一緒に応援しながらぜひお楽しみください。

休憩



5. 学校長の話

6. 三びきのかわいいオオカミ 2年

あるところに、3びきのかわいいオオカミがおかあさんと一緒に暮らしていました。ある日おかあさんは、家を出て自分たちの家を作るよう3びきに言います。「でも、悪い大豚には気を付けるのよ。」と。まず、3びきはレンガの家を建てますが、悪い大豚がやってきてハンマーで家を壊してしまいます。この悪い大豚は、もう悪いのなんのって、その次に鉄で建てた家はダイナマイトで壊してしまいました。最後に建てた家は…

元気いっぱい2年生63名で行う初めての学芸会。是非、お楽しみください。

7. ほんとうの宝ものは? 4年

あるとき、「世界宝ものコンクール」が開かれ、そこに世界中の国々から、我こそはと宝ものを持って集まります。「月の水」「光り輝くダイヤモンド」「空とぶジュウタン」と、珍しいもの、価値あるもの、宝物はさまざまです。なんと、「ウルトラ原子爆弾」まで……。審査員がそれぞれの宝ものが本当の宝ものなのかを判定していきます。自分にとって「本当の宝ものは何だろう?」と考えさせてくれる話です。

4年生64人が、役になりきり、みんな精一杯演技をしますので、子供たちの頑張りを是非見てください。

8. 人間になりたがった猫 6年

ライオネルは人間になりたがっている猫。ダンスタンの森で魔法使いのステファヌス博士と共に暮らしています。ある日、二日間だけ人間の姿に変えてもらうことになったライオネルは、ブライトフォードの町へ出かけていきます。

薬売りのタドベリ先生、魚屋さんに肉屋さん、意地悪な衛兵隊長のスワガード。そして、「白鳥の王様」という店の娘ジリアン。ライオネルはたくさんの人たちに出会います。

ステファヌス博士は言います。「人間なんて愚かな生き物だ」と。人間は本当に愚かな生き物なのではないでしょうか。それとも、ライオネルが言うように「人間で、とってもステキ」なのではないでしょうか。この劇を通して、子供たちと一緒に考えてみてください。

最高学年として、6年生らしい劇をお届けします。舞台を翔けめぐる子ども達にご期待ください。

9. おわりの言葉